

2 威光寺の長尾寺口別、寺か？

「吾妻鏡」は二つの寺を明確に区別している。

(両寺が「吾妻鏡」と太く区別した最初の二つの記事を参照)

「武蔵国威光寺は、源家数代の祈りの所なりてあり、院主の増円が相伝の僧坊(寺の建物)と寺領を元より以上に課税を免除する。」(11/10)
「武蔵国長尾寺は、頼朝公の舍弟の禪師金成(戦国)が建てた。よって今日より本坊に安堵し、源家のために祈りを行ふ事を命ずるに由り、住侶の増円を罷免、寺領を召出さす。」(11/19)

※同日午後4日達にて、院主増元が頼朝に命ずるものもあかし。これを各記した同所を以て、今も長尾寺、威光寺と区別してある。

3 長尾寺とは？

鎌倉の寸北。文船取の北方

の長尾と書、長寺(7/11/1)

※桓武平氏の文徳一族の流

の長尾氏の居城あり。



・源頼朝挙兵時に敵討。(1180年8月)

・1180年10月23日に頼朝に参参。三浦一族

と別れ、寺を本寺(祈念施設)の上

・11/9に長尾寺の寺領を本寺に譲り、道徳。

「院主長尾氏に口別物ありて、寺領を以て

意味、記すに由り。

・長尾定尋以後に中興して、御家人として

治蹟に由り、一族の宗家の大延、院存

・北城に上後口。三浦一族の御家人として。

・定尋の子の代に、三浦氏に北城の武士の御衛士(1277年)。

長尾一族は三浦氏に同調し、長尾城に下城した。寺も廃滅か？

※長尾寺は1180年11月1日、本坊(寺の建物)の寺を安堵、文工を行ふに由り、寺も廃滅か？

長尾の歴史(4) ~ 威光寺の稲毛三郎重成 ~

1 幻の威光寺

・1978(昭和53)年、妙楽寺所蔵の薬師三尊像を解体修理。

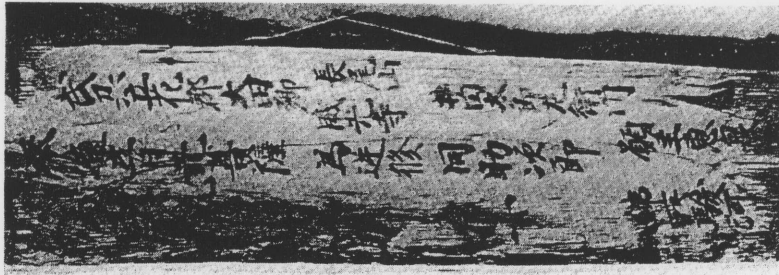
脚持の日光菩薩像の胎内から墨書が発見(右の資料参照)

この中に「長尾山威光寺」の名あり。

「威光寺」とは？

・鎌倉幕府の正史「吾妻鏡」の中に何度か登場し、源氏の古くからの祈りの所としてあり。頼朝の弟である金成を院主とし、その寺領を免除。

・後に建てた寺に、江戸時代末に「新編武蔵風土記稿」が編集された際、幕府おかし方の寺者か、吾妻鏡に見える「威光寺」と「長尾寺」とは同じ寺と考へ、長尾村の妙果寺か？



武州立花郡大田郷長尾山威光寺
華造立日光菩薩 為逆修
天文十二癸巳九月十五日

井田太郎左衛門 願主 惠泉
同助次郎 佛師 駿河 虎女

「長尾山威光寺」の銘(川崎市多摩区「妙楽寺」蔵)
日光菩薩像の胎内から発見された

次の後身として建てられたから、御土家建立、同じ寺と考へた。

・日光菩薩の胎内墨書により、妙果寺が威光寺の後身である事が証明された。

~ 華師三尊像の、本堂に口別く手前の土蔵に墨書として発見
※威光寺が滅びた時、その塔頭(寺の入り口)の妙果寺に移されたのか？

威光寺	長尾寺
① 治承四年(一一八〇年)十一月十五日 源家数代の祈禱所 院主は増円 寺領課税を免除	① 治承四年(一一八〇年)十一月十九日 源頼朝の弟の金成を院主とし？ 増円、観海、弁朗などに祈禱させる
② 文治元年(一一八五年)四月十三日 院主は長栄 小山太郎の進言を幕府に訴えて成功	② 養和元年(一一八二年)二月十三日 長尾寺 求明寺は源家の累代の祈願所 両寺の責任者を長栄とする
③ 承元二年(一一〇八年)七月十五日 院主は田海 増西の乱入を幕府に訴えて成功	③ 寛喜元年(一一二九年)十月九日 院主は田海 田海の門弟が受戒のため上洛したさい、過書(通行証明)を与えられた

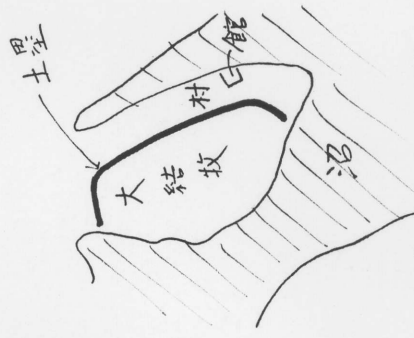
(吾妻鏡より)

※ 同姓の尊敬
 守 介 掾 目
 守 介 掾 目

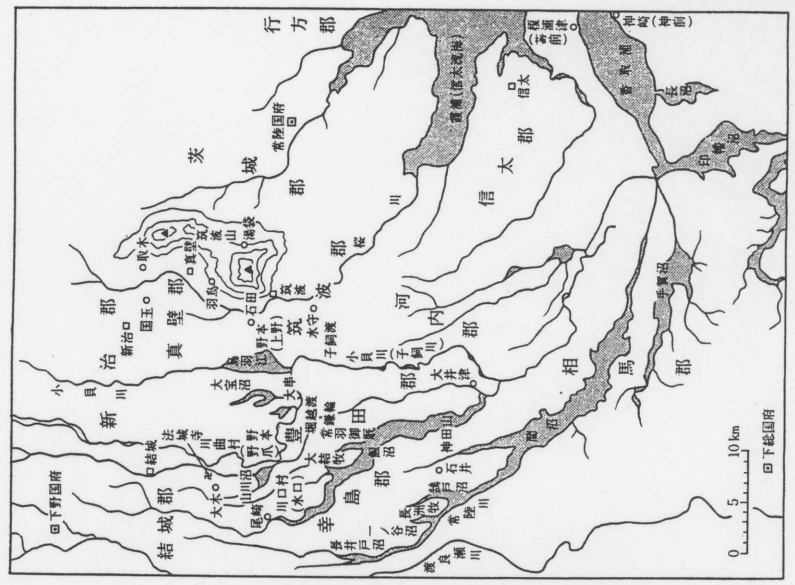
- 4 桓武平氏とはどのような一族か。
- 桓武天皇の孫の高祖王が「平」の姓をもち、上総介として関東に下る。
 - 国司の地位権限を利用し、関東各地に子孫の根を植える。
- (1) 未開地を開拓し、所領とする。
 (2) 有力の家臣(大寺の所領地)のむくみ入(所領地)を得る。
 (3) 各地の官管の「牧」(主に軍馬を生産)の長官となる。
 牧と事実上の所領と化する。

(A) 平将門の場合

- ・ 根城; 石井の宿
 - ・ 基盤; 水口の宿
 - ・ 長州の牧
 - ・ 大結の牧
 - ・ 学羽の御殿
- ※ 牧と生産は馬と訓練所(官管)施設



・ 通常 400~800騎、優秀な騎馬隊(家臣団)ととも、幸島郡豊田郡の農民(武士)に従軍(約1,000~3,000人)を率えていた。



3 威光寺と建てたの誰か? 「稲毛三郎重成」

- ・ 桓武平氏流秩父氏の一族で、小山田有重の三男。
- ・ 1180年 頼朝の妾房。下総、上総の従之に依り武蔵国へ入国(北条氏)から家人として加わる
- ・ 頼朝の近侍。平家朝敵に参陣。1184年2月、一合合軍に北条軍。
- ・ 1189年、奥州出兵にも従軍。
- ・ 頼朝、妻北条政子の妹と嫁とする(1195年7月4日)。妻は子に依り出家。
- ・ 1205年6月23日。幕府重臣小山重忠謀殺の首謀者として殺され、稲毛氏滅。

○ 威光寺と建てたのは稲毛三郎重成と伝わる。

- ・ 鎌倉時代初期、「小山田三郎重成」と名づけており、後北条小山田有重より稲毛の地を依り、「稲毛三郎」と称した。
- ・ 1180年当時、威光寺 = 「源家数代、新公行」。頼朝より2代前、時代より源氏に縁がある。

○ 稲毛荘の開拓者の小山田?

- ・ 小山田有重? ... この時威光寺を建てたのは「源家数代...」と北条氏。
- ・ 有重の4世代前 — 秩父学任 (= 小山田大夫) ... 小山田庄開拓者?
- ・ 有重の9世代前 — 秩父基家 (= 河崎冠者基家) ... 河崎庄開拓者?

○ 小山田の土地は稲毛庄内開拓か?



左記形勢別市域農村図(「新編武蔵風土記稿」1830年)より

(b) 桓武平氏支流の场合

- 高望王の五男平良文(武藏守として)、文里郡村岡(熊谷市周辺)を開拓した者。常陸教皇の騎兵隊の将
- 良文の子、忠頼(忠光の子)が武蔵。石をとりす。
- 忠光の子孫 → 相模の国に土着 (三浦一族)
- 忠頼、武蔵甲斐使(警察)・陸奥守として。
- 忠頼の子(忠光の子)が忠常 → 房総地方に勢力を伸ばし、1028年反乱。
- 平直方(桓武平氏の嫡流)が追討役に任じられ失敗。

～忠常の「主人」に於ては源頼信が主として居る。～
 源頼信の嫡子、頼義(平直方、右に右)
 桓武平氏の嫡流に任じられた者 — 鎌倉幕府 —

忠常、子孫 → 上総、下総、文豪族

- 忠頼、長子、平将常(後醍醐天皇)に土着。武蔵播磨守として自叙。
- 将常の長子、平武基 → 秩父郡(現秩父市)に土着。
- 武基の長子、武綱 → 秩父郡(現秩父市)に土着。

武基、子、武常 → 秩父十郎、土着。
 ※ 前九年の役(1051～1062)に源義家に従って出陣。
 後三年の役(1083～1087)

武基、子、武常 → 豊前郡・下総国葛飾郡に土着

- 武基、子、武常 → 多摩郡小山田に土着。
- 多摩郡 → 多摩郡「牧」の存在。
- 多摩郡小川(現、秩父市小川)の河内平小川 = 「小川牧」
- 多摩郡立野(現河内市立野)の河内木曾付也 = 「立野牧」
- 多摩郡小野(現河内市小野)の河内小野路 = 「小野牧」
- 多摩郡石川(現八時市石川) = 「石川牧」
- 柳井郡石川(現保北石川)

武綱、子孫 → 武蔵の国各地に土着。
 武綱の長子重綱、子孫重能 → 男金部島山郷
 子重隆 → 入間郡河越生
 子重継 → 荏原郡江守郷
 子孫有重 → 南多摩郡小山田庄

(c) 福毛三郎重成の场合

- 福毛庄……中心は現在の宮内付也(=福毛本庄)
- 中原・高津区、多摩川沿いに、微高地。
- ※ 1164年一在比 藤原頼朝家、又藤原相長に依り。(重成の父、小山田有重の時代)
- 重成の館跡に在り。
- ・ 新形山の山に在り — 応福寺
- ・ 857年慈覚大師、開山
- ・ 1195年中興開基 福毛三郎入道重成
- ・ 城に在り — 多摩区 小沢城跡、折形城跡、志津田 下作城跡) ※ 今も城跡は、戦国時代の。

福毛庄の山に在り → 「福毛新庄」か?

「新新」の存在?

・ 神木(シボク) ← 波子(シボク?) ← 新牧

・ 子母口(シボク) ← 波子(シボク?) ← 新牧

・ 新領(字)のため ⇒ 藤原頼朝家と庄園の名目上は新牧

(種々の課税、税を納む)

都の「軍事貴族」源氏の臣下として。

源氏(源氏)の源氏、加藤氏(源氏)

※ 保元・平治の乱後…源氏没落

平氏 = 都の政權を握る。

都、軍事貴族、平氏、臣下として。

(平氏の力に国司を対抗)

※ この過程で武士の勢力を認識。

1180年…源氏、及平氏及乱(=上皇、源氏、支持) ⇒ 反平氏、自立化

鎌倉幕府、成立

この過程で都、朝廷も自立化

1199年…將軍頼朝死後 関東、源氏家武士、主等源氏の

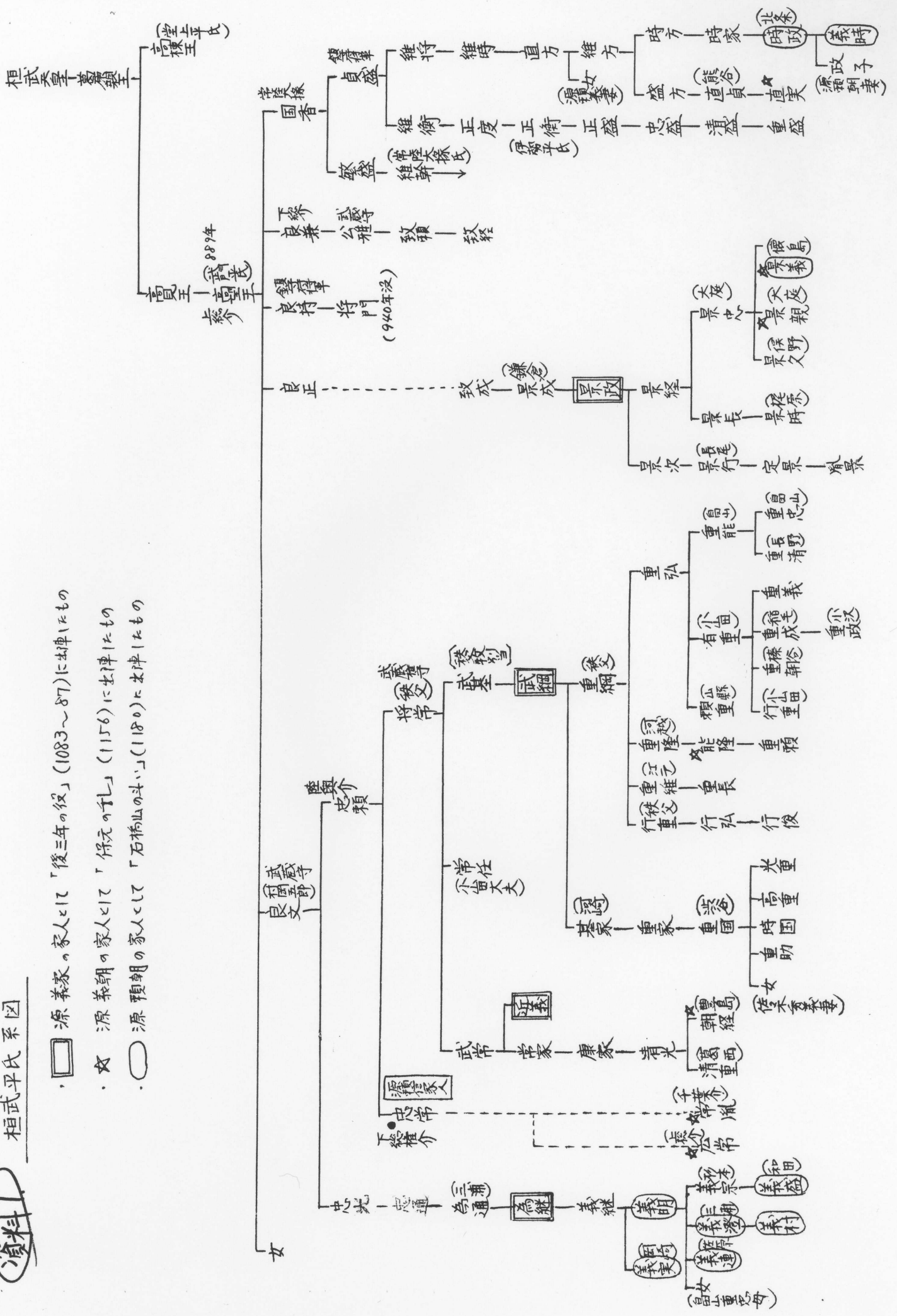
1205年…桓武平氏支流の嫡流の嫡流(島山、小山田、福毛氏)滅亡。

※ 福毛庄、新庄に在り。

資料1

桓武平氏系図

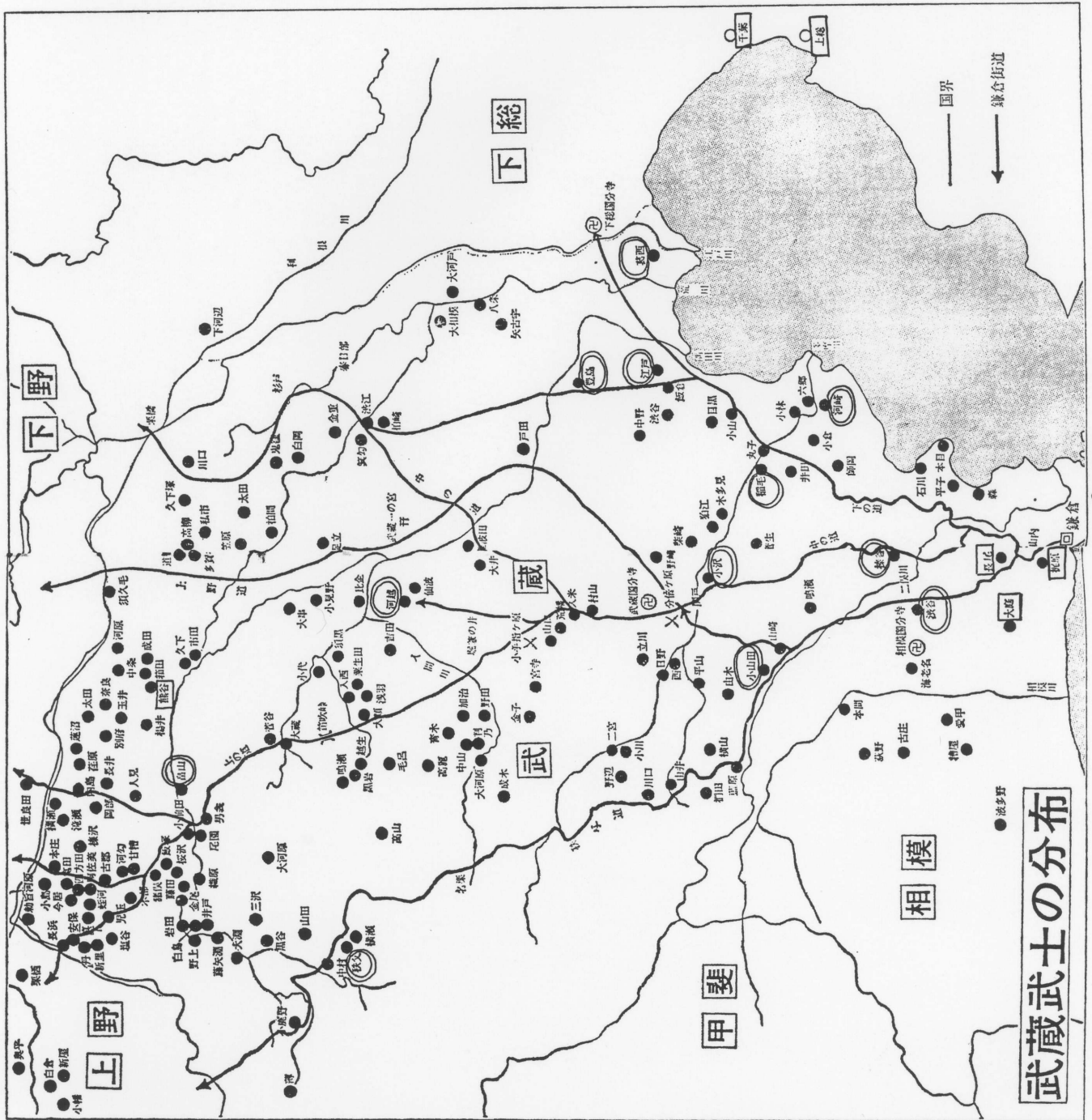
- 源義家の家人として「後三年の役」(1083~87)に出陣したものを示す
- ☆ 源義朝の家人として「保元の乱」(1156)に出陣したものを示す
- 源頼朝の家人として「石橋山の斗い」(1180)に出陣したものを示す



資料

○ 桓武平氏 殺父氏流

□ 桓武平氏の 其他の流



武蔵武士の分布

